日本語学習者作文コーパスにみる多義的副詞の習得について
An analysis of acquisition data of homonymous adverbs in corpora of JSL writing.

浅田　和泉

Asada Izumi

1　はじめに

日本語教育において、動詞・形容詞等の品詞に比べ、副詞は取り立てて指導する機会が少ない（小寺　2001）。しかし、川口・佐々木（1996）の調査によると、作文において副詞の使用率は名詞、動詞に次いで多かったとしている。それでは、日本語学習者（以下、学習者）は作文上でどのように副詞を用いているのであろうか。副詞には、意味的にも構文的にも様々な多義性があると思われるが、学習者は多義性のある副詞の意味を理解した上で使用しているのであろうか。本研究では、学習者の書いた作文をもとに、様々な多義性のある副詞の使用状況を調査分析し、多義的副詞の習得に見られる傾向について考察することとする。

2　「副詞」の定義

これまで副詞は、「（前略）副詞が積極的な形態上の支えをもたないために、そして、「連用修飾」という構文的機能自体がいたって曖昧なために、分類上所属が問題になるものが、たいした吟味も経ないままに（とりあえず）副詞の方に放り込まれるということになりがちである。」（村木　1993：pp.165）ことから、品詞論のハキダメとも呼ばれているが、近年、副詞に関し様々な研究がされるようになった。しかし、「副詞とは何か」に関しては、副詞の分類を含め、これまで多くの研究者によって論じられているにもかかわらず、いまだに一定していないようである。本研究においては、市川（1976）の定義を用い、他の品詞とされているものは除き、主として、用言を修飾し、連用修飾になる単語を「副詞」とした。また、研究に際し、以下（ア）～（ウ）の用法（市川　1976：pp.230-231）は分析の対象から除いた。

（ア）副詞に指定の助動詞がついて、述語になる場合。

　　例：十時に出勤とはずいぶんゆっくりだ。

（イ）副詞に格助詞「の」がついて、連体修飾になる場合。

例：たくさんの本を読んで研究する。

（ウ）副詞が体言を修飾して、連体修飾になる場合。

例：もっと東だ。

3 「多義」について

多義には、様々な種類があると考えられる。本研究では、“語彙的（辞書的）意味の違いによるもの”、また、構文によって生じる構造の制約または共起制限など“構文的違いによるもの”、プロミネンスあるいは発音の速度により、文の意味が変化する“音韻的違いによるもの”の観点から、多義性について考察を試みた。

4 調査の概要

4-1 データ収集

本調査は、国立国語研究所（2001）の作文データベースを用いておこなった。日本語作文執筆者の国籍および作文数は表 1 の通りである。

表 1　作文コーパスの概要

日本語作文執筆者国籍	作文数	日本語作文執筆者国籍	作文数
中国（cn）	88	モンゴル（mn）	141
韓国（kr）	246	マレーシア（ml）	112
タイ（th）	89	ヴェトナム（vn）	74
インド（in）	42	カンボジア（kh）	118
シンガポール（sg）	147		
		合計	1057

4-2 調査方法

作文データより本研究の対象となる副詞を取り出し、その中から使用頻度が高い副詞を 8 選択した（表 2）。その後、それぞれの副詞について、“語彙的（辞書的）意味の違いによるもの”、“構文的違いによるもの”および“音韻的違いによるもの”別に、実際にどのような多義が存在したかを調べるとともに、誤用文の分析も行った。また、本研究では、副詞の用法に関する誤用のみを誤用文とし、以下の誤用について副詞の用法に直接影響しな

い場合、許容の範囲とした。

a. 助詞に関するもの　例：友達をいっしょにごはんを食べる。

b. 文字・語彙に関するもの　例：友達といしょうにごはんを食べる

c. 活用に関するもの　例：暑いでした

d. 時制に関するもの　例：昨日、家でごはんを食べる。

表 2　分析対象の副詞（文の総数）

とても[1]	（561）	ちょっと	（101）
よく	（324）	ぜんぜん	（97）
いつも	（191）	ずっと	（76）
あまり	（164）	すこし	（68）

5　調査結果

選択した副詞ごとに 1)語彙的（辞書的）意味の違いによるもの、2)構文的違いによるもの、3)音韻的違いによるもの、4)誤用文、の順に学習者の作文から実例を取り出し、結果を示す[2]。その上で、多義的副詞の習得にどのような傾向が見られるか考察する。“語彙的（辞書的）意味”については、『基礎日本語辞典』（森田　1989）を参照とした。

5-1　「あまり」

《語彙的（辞書的）意味の違いによるもの》

「あまり」は、程度を表す語である。〔kh069〕〔kr059〕〔kh108〕のように述語が否定の場合、数量または程度が高くないことを表す。また、〔kh108〕には「がっこうへいく」のような事態が起こる頻度が少ないという意味も含まれている。〔in026b〕は、述語の肯定形とともに用い、数量または程度が過多・過度であることを表している文例である。

kh069[3]　カンボジア人の生活はあまりよくないと思います。

kr059　その女の友だちは、平素では、タバコをあまり、吸わないですが、ビールとかお酒を飲む時は、タバコを吸います。

kh108　おんなのひとはあまりかこう→（がっこう）[4]へいきません。

in026b　あまりタバコを吸うとけんこうに悪くなります。

《構文的違いによるもの》

〔th077〕は、「あまり」が主文となっており、否定文となる。〔in026b〕のように否定と呼応しない場合は、条件節が伴う等構文制限がある。

th077　しかしながら、そういう伝統は最近あまり目にしません。

in026b　あまりタバコを吸うとけんこうに悪くなります。

《音韻的違いによるもの》

同じ文であってもプロミネンスをおく位置によって、意味が異なる場合がある。〔kr018 ①〕は、「あまり」にプロミネンスがあり、「好き」の程度が高くないことを表しているが、〔kr018 ②〕のように「好きではない」にプロミネンスがある場合、全部否定のように感じられる。

kr018　①私はたばこを吸っていない。またお酒も〔あまり好きではない〕。

kr018　②私はたばこを吸っていない。またお酒も〔あまり〕〔好きではない〕。

《誤用文》

〔in059〕〔kr066〕は、被修飾語の意味の違いによるもので、「間に合う」「肯定、否定」という程度性のないものは被修飾語にならない。しかし、〔kr066〕を誤用とするか否かは日本語母語話者でも判断が難しいと考えられる。〔th040〕〔vn065〕〔kr016〕は、否定と呼応しない場合の構文的条件を満たしていない。〔th040〕〔vn065〕〔kr016〕は、「とても」あるいは「あまりに」の誤用と思われる。

in059　*あまり間にあわないて遅くなって王が激怒になって顔が赤くなりました.

kr066　?わたしはたばこについてあまり肯定でも、不定でもないです。

th040　*私は厳しく規則のことを教えた先輩があまり好きだったが、大学の歌を歌うことが好だったから二年生の時に歌を教えた生輩になった。

vn065　*先生の日になると、学校であまり大きいパーティーがひらかせます。

kr016　*吸う時は権利を主張して、病気になると人に責任を転嫁するのはあまり無責任な行動だと思う。

「あまり」の使用状況を表3にまとめた。「あまり」については、語彙的、構文的に考えられる用法は全て用いられていた。しかし、学習者の作文には否定形式と結びつく用法「あまり～ない」の形が多く用いられており、否定と呼応していない「あまり」に関しては、使用頻度が非常に少なく、誤用とみられる文が多かった。

表 3　「あまり」の使用状況（誤用文・意味不明文を除く）

- あまり（150）
  - 肯定形と呼応するもの（2）
    - 条件節（1）
    - 原因・理由節（1）
  - 否定形と呼応するもの（148）
    - 部分否定
    - 部分否定ではない？

5-2　「全然」

《語彙的（辞書的）意味の違いによるもの》

「全然」は〔sg016〕のように述語が否定形の場合、その動作や状態を否定し、〔sg030〕のように否定的な語をともなっても同様に否定を表す。また、例 1)は、肯定的に用いることで程度の強調を表している[5]。通常「全然」は全部否定に用いられるが、例 2)は一部には例外もあるということを表した例である。

sg016　日本では、そんな規則がないが、バスや電車でたばこを吸う人は全然見なかった。

sg030　この晩は新婦と新郎の活動は全然ちがいます。

例 1)[6]　あの歌、全然すてき！電車で行くほうが全然早い。(『日本語教育辞典』(1976))

例 2)　全然飲めないわけではない。（自作例文：以下、自とする）

《構文的違いによるもの》

「全然」は否定形および否定を表す語と呼応し、否定の文となる。しかし、〔th095〕推量や〔kr123〕可能のような文末表現とは共起するが、例 3)のように直接的な命令表現とは共起しにくく、例 4)、例 5)、例 6)の文末表現とは共起しない（丁　2005)。

th095　この世界にたばこを吸わない人がない国はぜんぜんないだろう。　（推量）

kr123　たとえば、会社やバスや飛行機や電車などの場所にはぜんぜんたばこを吸うことはできません。　（可能）

例 3)　*全然帰るな！（自）　（命令）

例 4)　*全然帰ってはいけない。（自）　（禁止）

例 5)　*全然帰らないでほしい。（自）　（依頼）

例 6)　*全然帰らないように。（自）　（忠告）

《音韻的違いによるもの》

例 7)は、「全然」にプロミネンスがあり、強い否定を表しているが、例 8)のように「わからない」にプロミネンスがある場合、「わけではない」のように否定の語をともなうことで部分否定になる。

例 7) 〔全然わからない〕。(自)

例 8) 〔全然〕〔わからない〕わけではない。(自)

《誤用文》

「全然」は否定文の場合、〈禁止〉文末表現とは共起しない(ml077、in023b)。〔sg077〕は、「ひかくてき」という評価性の濃い語を全部否定の副詞とは組み合わせたことによる誤りであると思われる。また、〔sg083〕のように被修飾語が「同じ」という肯定的な語を用いて否定文にすることはできないようである。その他に〔mn041〕〔ml130〕〔kr195〕のような文が見られた。これらの文例には不自然さを感じるが、誤用とするか否か難しいところである。

ml077 *それだけではなく私たちは全然悪いとと→(こと)をしてはいけません。

in023b *たばこを公の場で全然吸うのはいけませんというきそくをとてもいいです。

sg077 *日本の端午の節句は、ひかくてき全然ちがいます。

sg083 *シンガポールも日本もアジア大陸に位するからといって、文化が全然同じとはかぎらない。

mn041 ?でも、法律でたばこを吸うのを全然禁止するのは、無理だ。

ml130 ?イスラム教にたばこを吸ってはいけないように言ましたがイスラム教徒*がぜんぜん無視をすこ→(する)ことが多いです。

kr195 ?たばこを吸うひとのれんれい→(ねんれい)がぜんぜんひくまっています。

表 4 は「全然」の使用状況である。「全然」の否定用法はかなり用いられていたが、例 1)のような程度の強調を表す用法は全く用いられていなかった。それはこの用法が、話し言葉で多くみられるものだからだと思われる。また、例 8)のような部分否定文も学習者の文例にはみられなかった。

例 1) あの歌、全然すてき!電車で行くほうが全然早い。(『日本語教育辞典』(1976))

例 8) 全然わからないわけではない。(自)

表 4　「全然」の使用状況（誤用文・意味不明文を除く）

全然（82）
- 否定形と呼応するもの（69）
- 否定的な語と呼応するもの（13）
  - → 全部否定（80）
  - → 部分否定（0）
- 肯定形と呼応するもの（0）

5-3　「とても・とっても」

《語彙的（辞書的）意味の違いによるもの》

〔sg074〕〔sg051〕〔in030b〕は、その状態の程度がはなはだしい様子を意味する。〔sg024〕〔ml134〕のように、述語が否定形あるいは否定的概念の語の場合は不可能を表す。

sg074　こうして、お正月を過ごすのはとても楽しいです。

sg051　みんなはとても心配している。

in030b　ところが、このごろたばこをすうことは若者の中ではとてもにんきがあります。

sg024　たくさんあって、さかなはとても食べ切れませんでした。

ml134　その理由だけなんて、とっても信じられません。

《構文的違いによるもの》

程度を表す「とても」は、肯定文と呼応する〔th017〕。〔ml134〕のように否定と呼応する場合は、不可能表現が伴う。また、例 9) 例 10)の場合、例 9)は否定形を修飾しており非文となる。しかし、例 10)のように「とても」が状態の程度「きれい」を修飾している場合は、付加疑問文として用いることができる。

th017　とてもきれいだ。

ml134　その理由だけなんて、とっても信じられません。

例 9)　*〔とても〕〔きれいじゃない〕。(自)

例 10)　〔とてもきれい〕じゃない？(自)

《誤用文》

〔kr030〕〔mn033〕のように否定文では用いることができない。〔kr038〕も否定の辞を用いた否定文である。〔ml116〕〔kr094〕は被修飾語「違う」「対立する」がそれぞれ二極性を示しており、状態性の動詞とは考えられない。また、〔ml116〕のように「とても」を比較構文に用いることは不自然である。〔sg033〕も被修飾語に程度性のない語を用いたことによる誤りである。

kr030　*しかしタバコを吸いすぎると体にはとてもよくない。

mn033　*これは私のとってとてもただしくな*いです。

kr038　*わがの日学生活でたばこは、ある人にはいなければならない物かすればある人には、とても不必要な物なのです。

ml116　*今と昔はとても違います。

kr094　*たばこについて意見は韓国でもとても対立しています。

sg033　?とても伝統的な人が黒い物は禁制だと思います。

「とても・とっても」の使用状況は、表5の通りである。程度を表す用法が多く用いられており、特に述語に形容詞をともなう表現が大部分を占めていた。否定形および否定的な概念の語を用いて、“不可能”を表す用法も4例のみであったがみられた。

表5　「とても・とっても」の使用状況（誤用文・意味不明文を除く）

とても・とっても（542）─┬ 肯定形と呼応するもの（538）
　　　　　　　　　　　　└ 否定形・否定的な概念の語と呼応するもの（4）

5-4　「すこし」「ちょっと」

《語彙的（辞書的）意味の違いによるもの》

〔kr028〕〔ml097〕は事柄・状態の程度、〔kr213〕〔cn002〕は時間・距離の程度、〔ml033〕は量の程度があまり大きくないことの意である。〔cn012〕は、程度が高すぎて不可能だという意味を表しているようである。

kr028　こう言う問題は、たばこを吸う人が少し気を使ってくれれば解*決できることだと思います。

ml097　ただしいは現在の生活は十年前と比べるとちょっと変りました。

kr213　新式結婚式は時間がすこしかかります。

cn002　しかし、ちょっと歩いたところ、又街の人に何か言われました。

ml033　全部上の式が終わったら、子供の家族が少し食べ物を来た人にあげます。

cn012　でも、「タバコのコマーシャルはテレビで放送できないようにするべきだ」というのはちょっと無理だと思います。

また、程度表現の他に、岡本・斎藤（2004）がまとめているコミュニケーション機能がある。〔kh088〕〔kr209〕は“依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる”もので、〔cn033〕

は“否定的内容の前置き”、〔in014b〕は“断りを受けやすくする”意味となる(7)。

kh088　これからわたしのほうはカンボジアのおぼんについてすこしおはなししたいとおもいます。

kr209　公共場所での吸煙についてちょっと考えましょう。

cn033　したがって、そんな「規則を作って禁止するのはおかしい。」とか、「だれにもたばこを吸う権利があるはずだ」と言った人々は、ちょっと利己的ではないか。

in014b　もし少年ためにはそんなことが必悪*です。しかしおとなにはちょっと…

《構文的違いによるもの》

程度の「すこし・ちょっと」は肯定表現・否定表現ともに用いることができる。しかし、量を表す場合は、肯定表現とのみ呼応する（例 11、例 12)。また、量の程度を表す「すこし／ちょっと」は、例 13)のように状態性をもたない動詞と呼応し、例 14)のように強調あるいは不可能などを表す場合には、否定表現との呼応が可能である。

例 11)　すこし／ちょっと食べる。（自）

例 12)　*すこし／*ちょっと食べない。（自）

例 13)　お酒をすこし／ちょっと飲む。（自）

例 14)　お酒は?すこし／ちょっと飲めない。（自）

《音韻的違いによるもの》

〔kr093①〕は、「ちょっと」にプロミネンスがあり、「おかしい」の程度を少しと形容しているが、〔kr093②〕のように「おかしい」にプロミネンスを置いた場合、「おかしい」のマイナス的な意味を強める。「ちょっと」を「すこし」に置き換えても同じだと思われる。また、〔kr093②〕の「ちょっと」は、“否定的内容の前置き”と考えることもできる。

kr093　①でも例文の後者の意見とおなじように、規則をつくって禁止するのは〔ちょっとおかしい〕と思います。

kr093　②でも例文の後者の意見とおなじように、規則をつくって禁止するのは〔ちょっと〕〔おかしい〕と思います。

例 15)と例 16)は要求の文である。例 15)のように「すこし・ちょっと」にプロミネンスがある場合は数量を表すが、例 16)のように「食べてもいい」にプロミネンスが移動することで、「ちょっと」は要求をやわらげるものになり、また、「ちょっと」の後にポーズを置くことで“呼びかけ”になる。また、例 16)の「ちょっと」は、“とがめ”を表している

ともとれる。

例 15)　〔すこし／ちょっと　食べてもいい〕でしょう？（自）

例 16)　〔*すこし／ちょっと〕〔食べてもいい〕でしょう？（自）

《誤用文》

〔ml031〕のように否定文では用いることができない。〔kh028〕〔kh029〕は前後の文から考えると「すこししかない」「あまり～ない」という否定的表現を用いたほうがいいと思われる。〔sg041〕のように比較表現に用いる場合には、一般的に比較することによって生じる違いを表すようである。〔mn009〕は、「できるだけ吸ってもいいでしょう」「少し吸ってもいいでしょう」のように「できるだけ」と「少し」を一緒に用いなければ文が成立する。このことから考えると、「できるだけ」という上限を表している語に「少し」という少量の語を合わせたことにより、文に不自然さが生じたものと考えられる。

ml031　*ですからこのハリラヤコルバンはちょっとにぎやかなではありません。

kh028　*今のカンボジアはお金もあまりないし、人間のさいけんもすこしあるし、そして教育もまだよわいです。

kh029　?せかいの中にはトンレサプでかわのさかながいちばん多いですが、今はすこしいます。

sg041　?ｓｔｅａｍｂｏａｔと日本料理のしゃぶしゃぶはちょっと同じです。

mn009　*それからたばこをできるたけ少し吸*ってもいいでしょう。

表 6 は、「すこし・ちょっと」の結果である。「ちょっと」の量を表す用法はわずか 2 例であった。コミュニケーション機能表現も学習者の文例にはほとんどみられなかったが、やはりこの表現は、話し言葉のおいて用いられるものであるからだと言える。

表 6　「すこし・ちょっと」の使用状況（誤用文・意味不明文を除く）

すこし（58）・ちょっと（99）
- 程度（44/93）
  - 程度が高い（2/11）
  - 程度が高くない（42/80）
- 量（10/2）
- コミュニケーション機能（4/4）

＊（「すこし」の該当件数/「ちょっと」の該当件数）

5-5　「よく」

《語彙的（辞書的）意味の違いによるもの》

「よく」は、頻度および程度を表す。〔ml004〕はその行為が頻繁に起こることを表しており、〔kr036〕〔kr025〕は、行為・作用が“十分に”という程度を表す。〔kh069〕〔cn014〕には、頻度と程度の両方の意味が含まれていると思われる。さらに、〔cn014〕には、量的な意味も含まれているようである。〔th080〕も程度表現と考えることができるが、行為の結果に肯定的な評価をしている。

ml004　最近、苦い人がタバコを吸いているのをよく目にする。

kr036　自分と他人の健康をよく考えてたばこを吸わなければなりません。

kr025　よく知らない人も少なくないと思います。

kh069　政府はそのことをよく考えていますが、たすけるのはとてもたいへんです。

cn014　たばこをよくすうひとは、肺の疾病とか、呼吸器の疾病がよくある。

th080　それに、首相はよくできる学生にでも賞品をあげます。

《構文的違いによるもの》

「よく」は一般の程度副詞とは異なり、〔in019〕のように動詞を修飾し、形容詞・形容動詞・名詞とは共起しない。しかし、頻度を表す「よく」は、〔kh073〕のように名詞との共起が可能であると思われる。また、頻度を表す「よく」は、否定文と呼応しない。

in019　１０年たったがけれども私は今も祖父から聞いた話しはよく覚えている。

kh073　でもし方と同じぐらいですがお客さんのおいわいはよくお金です。

また、「よく」の修飾語に係る内容によって行為者が場合がある。〔th001①〕では、「よくわかった」のは「たばこをすう人」になり、〔th001②〕では、「よくわかった」のは話し手ということになる。

th001　①それで、たばこをすう人は〔どこでたばこを吸えるか吸えないか〕よく分かりました。

th001　②それで、〔たばこをすう人はどこでたばこを吸えるか吸えないか〕よく分かりました。

《音韻的違いによるもの》

〔kr224①〕は、「よく」にプロミネンスがあり、行為の結果に否定的な評価をしているように思われる。しかし、〔kr224②〕のように「いった」にプロミネンスを置いた場合、

頻度を表す。

kr224　①その時、吸わない人々が不快に感じればじょうだんでたばこを吸えばいいだろうと〔よくいった〕ものです。

kr224　②その時、吸わない人々が不快に感じればじょうだんでたばこを吸えばいいだろうと〔よく〕〔いった〕ものです。

《誤用文》

〔vn062〕〔kr101〕〔in017b〕のように頻度を表す「よく」は、否定文で用いることはできない。〔vn032〕のような比較構文の場合、否定的表現とは呼応しない。〔kh044〕〔cn085〕は、被修飾語に程度性のない語を用いたこと、〔kh005〕は「よく」の統語上の位置の誤りである。〔mn016〕のように、物理的な量のみを表現する場合には、用いることができないのではないかと思われる。

vn062　*今、女の人しかよくアオザイを着ていません。

kr101　*家族お互に向き合って対話できる時間はほとんどなくて、家族がみんなそろってともに食事する場合もないから家族の間には深い情がよく生じないことが多い。

in017b　*うちの父はたばこはそれほどよく吸っていないのに時々吸っています。

vn032　*私の国には日本とくらべてよく違います。

kh044　*仏教*の昔話によるとおぼんは仏教*とよく開係があります。

cn085　*今はよく解決していません。

kh005　*でもわたしのいけんは、じぶんのちからで、よくどりょくをもっとすべきです。

mn016　?あるいはそのたばこを買っているお金をよく集めて テレビとか車とか高い物を買おうなどのアピールすればいいと言いたい。

表 7 は、「よく」の使用状況である。様々な用法が用いられていたが、例 17)のような否定的な評価を表現する用法はほとんどみられなかった。また、「よく」には、同じ文においても意味がいくつか考えられるものが多く、学習者が的確に用いていたかどうかは文例だけでは判断が難しい。

例 17)　彼のせいでだめになったなんて、よく言えたな。（自）

表 7　「よく」の使用状況（誤用文・意味不明文を除く）

- よく（301）
  - 程度（133）
    - 程度（127）
    - 肯定的評価（6）
    - 否定的評価（0）
  - 頻度（148）
  - 頻度・程度（20）

5-6　「いつも」

《語彙的（辞書的）意味の違いによるもの》

〔kr230〕〔sg066〕〔ml008〕は、その行為・状況が継続している長い時間、あるいは行為・作用の繰り返しを表す。〔ml023〕〔cn039〕は、ある条件・状況が成立した場合には必ずその行為・変化・状態などが生じるという意味を表している。

kr230　いたらずがひどい学生も皆先生に感謝する思いはいつも持っています。

sg066　イント人はいつも神殿で結婚*儀式を挙行します。

ml008　太陰暦は太陽暦より違って、でもマレーシヤでは太陽暦を使うから、毎年いつもハリラヤーの日は違う日に祝います。

ml023　その時、むかしのはなしこといつも思いだした。

cn039　清明節はいつも雨がふります。

《構文的違いによるもの》

例 18)、〔cn039〕のように限定して起こる行為・状況には、前文に条件句が伴う。

例 18)　お酒を飲んだ時はいつも電車で帰る。（自）

cn039　清明節はいつも雨がふります。

また、〔th015〕のように他の副詞とともに用いる場合、「いつも」の語順は他の副詞の前に来る。しかし、〔th054〕のように語順を後にしてもさほど不自然さを感じないが、〔th054'〕と比較すると、「いつも」の係る内容が変わり、意味が異なるようである。同様に、〔cn072〕は「いつも」が係る内容によって、異なった意味の解釈ができる例である。「いつも」で表現される行為を少なくとも〔cn072①〕〔cn072②〕〔cn072③〕の 3 通り考えられる。

th015　ところで、タイの葬式は説明したとうりいつもまったく同じようにやるわけではない。

th054　私は「どうして、〔いつもたばこを吸う〕のですか」と思います。

th054'　私は「いつも〔どうしてたばこを吸う〕のですか」と思います。

cn072　そのうえきせつのまえにほくはいつも友達といしょうにマーケットへ新しいふくそうを買いに行きます。

cn072　①そのうえきせつのまえにほくはいつも〔友達といしょうに〕買いに行きます。

cn072　②そのうえきせつのまえにほくはいつも〔マーケットへ〕買いに行きます。

cn072　③そのうえきせつのまえにほくはいつも〔新しいふくそう〕を買いに行きます。

《音韻的違いによるもの》

〔kh053①〕のように、「いつも」にプロミネンスを置いた場合、「ダンスをします」という行為の頻度を「いつも」と強調しているように思われる。それが、〔kh053②〕のように「ダンスをします」にプロミネンスを置くことで、〔kh053①〕のような強調がなくなるだけでなく、「いつも」が表現する“毎回”という意識は薄れたものに感じられるようである。

kh053　①よるは〔いつもダンスをします〕。

kh053　②よるは〔いつも〕〔ダンスをします〕。

《誤用文》

〔ml095〕は、「いつも」が「一番」という副詞の後にあるが、他の副詞とともに用いるときには語順は前に来る。〔ml067〕については、「いつも$_1$」が「死ぬ」のみに係っていると考えた場合、「死ぬ」は点的な状態を表し、継続または繰り返し起こる行為ではないからだと考えられる。

ml095　*一番いつもする人は政治家である。

ml067　*だから私たちはいつも$_1$死ぬことがいつも$_2$考えなければならない。

「いつも」の使用状況は表 8 の通りである。「いつも」は、前の文とのつながりで意味が異なってくるが、どちらの用法も用いられており、誤用数から判断しても、全体的には「いつも」の用法は習得されているものと考えられる。

表 8　「いつも」の使用状況（誤用文・意味不明文を除く）

いつも（197）─┬─ 恒久的状態や継事的状況（181）
　　　　　　　└─ 限定された行為・状況（16）　――― 条件句

5-7　「ずっと」

《語彙的（辞書的）意味の違いによるもの》

〔kr148〕は事柄の程度を、〔kr075〕は時間の長さを比較している。〔kr028〕〔ml141〕は、行為・状況が長く連続している様子を表している。

kr148　規則を作ることよりは、たばこは人の健康にいろいろなたくさんの害＊があるのを人々に広く知らせるほうがずっと効果的だと思います。

kr075　そして西洋式*のより時間がずっとかかりますから、若者はあまり好きじゃないです。

kr028　私は誰かに“コーヒーは健康に悪いから飲まないで”と言われても、ずっと飲みつづけます。

ml141　断食は小さい時からずっとやっています。

《構文的違いによるもの》

〔ml141〕のように程度の「ずっと」は、状態性の語と呼応する。比較性が強い場合には、例 19) や例 20)のように比較構文を用いる。例 21)のように、他の時点の状態とを比較する場合は状態変化の動詞をともなうことが多い（工藤　1983)。

ml141　断食は小さい時からずっとやっています。

例 19)　ここは、自分の部屋よりずっと静かだ。（自）

例 20)　ここのようが、自分の部屋よりずっと静かだ。（自）

例 21)　10 年前に比べて、人口ずっと多くなった。（自）

《音韻的違いによるもの》

〔kr064①〕は、「ずっと」にプロミネンスがあり、「家」と「施設」の程度を比較している。しかし、〔kr064②〕のように「べんりに出来ている施設」のほうにプロミネンスを置いた場合、〔kr064①〕と同様の意味に加えて、「ずっと」が「ようじょうをしています」に係り、行為が継続している様子を表しているとも解釈することができると思われる。また、〔in037〕は比較の程度を表しているが、「ずっと」を「ず―っと」のように音の長さを変え、長く発音した場合、「上手だ」という状況が長く継続していたことを表すようである。

kr064　①（…前略…）このごろは家より〔ずっとべんりに出来ている施設〕で現代的なしかたでようじょうをしています。

kr064　②（…前略…）このごろは家より〔ずっと〕〔べんりに出来ている施設〕で現代的なしかたでようじょうをしています。

in037　この五人の男の人たちの中では、アルジュナというのは弓術が皆よりずっと上手でした。

《誤用文》

〔cn010〕は、文全体が状態変化の程度を表しているにもかかわらず、「ずっと」の被修飾語が状態の変化を表していないからだと思われる。

cn010　?いま、世界で毎年たばこによって死んだ人がずっと増える。

「ずっと」の用法はほぼ習得されていると思われるが（表 9)、音韻的違いによる意味の違いは文章上では判断が難しい。

表 9　「ずっと」の使用状況（誤用文・意味不明文を除く）

- ずっと（76）
  - 比較（24）
    - 他の物事と比較（18）
    - 他の時点の状態との比較（6）
  - 程度（49）

4-2　おわりに

今回は、学習者の書いた作文をもとに、“語彙的（辞書的）意味の違いによるもの”、“構文的違いによるもの”、“音韻的違いによるもの”の観点から、多義性のある副詞の使用状況を調査した。その結果、“語彙的（辞書的）意味の違いによるもの”、“構文的違いによるもの”に関しては、用法によって、習得されやすいものとそうでないものとがあるようである。否定と呼応する「あまり、全然」および肯定と呼応する「とても」の使用頻度が圧倒的に高かったことから考えると、川口・佐々木（1996）の述べているように、学習者にとっては呼応表現をもつ副詞の方が習得されやすいようである。プロミネンスの位置の移動などによって生じる“音韻的違いによるもの”のついては、この違いを文章上で判断するのは非常に困難だと思われる。表 10 は、全体の調査結果における誤用の割合を示したものであるが、誤用率から考えると「ぜんぜん」を除き、多義的副詞はかなり習得されているように思える。しかし、それは学習者が習得したものを用いたからだと考えることも可能であろう。今後は、本調査でみられた多義性以外の多義についても研究を進め、習得されていない、または習得が遅れている多義的副詞を分析していきたい。

表 10　「ずっと」の使用状況（該当文数）

	副詞文の総数	誤用件数（誤用率）	意味不明文
あまり	164	13 (7.92%)	1
ぜんぜん	97	12 (12.37%)	3
とても	561	12 (2.13%)	7
すこし	67	4 (5.97%)	5
ちょっと	104	2 (1.92%)	2
よく	323	15 (4.64%)	7
いつも	207	2 (0.96%)	8
ずっと	76	1 (1.31%)	2

注

1)　“とっても”を含む。

2)　文例は原文のまま示した。

3)　国立国語研究所（2001）のデータベースで用いられている執筆者番号を表す。

4)　原文の意味を正しく理解する必要がある場合、例：かこう→（がっこう）とし、括弧内に訂正した文を表示した。

5)　この用法について『日本語教育辞典』(1982）では、「「全然」は、本来正統的には否定表現にのみ用いられて来たが、最近になって口語的、若者語として肯定的にも用いられ始めた。（中略）肯定的用法も次第に正統として地位を獲得しつつあるように思われる。しかし、現在ではまだ、無教養的な、軽薄な感じを聞き手に抱かせる恐れがある。」としている。

6)　データベース以外の文例に関しては、「例 1)」のように示した。

7)　岡本佐智子・斎藤シゲミ（2004：pp.69-71）は、「ちょっと」のコミュニケーション機能を以下の 6 項目にまとめている。

①依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる：「（前略）聞き手に意思を尋ねる形式に「ちょっと」を用いることで、相手に求める行為を軽くさせ、受入れの寛容さに働きかける。すなわち「ちょっと」のやわらげ効果によって相手がその行為を受け入れやすくなるのである。」

②否定的内容の前置き：「マイナスイメージの表現や、重大ではないが不利益なこと・不都合なことなど利害関係が起こる可能性がある場合、「ちょっと」を置くことによって、あとに続く否定的な内容を暗示させ、聞き手にその負の内容を受け止める心の準備を与えたり、話し手の心理的な負担を

弱めたりする働きになる。」

③断りを受けやすくする：「（前略）言いさし、重要な述部を省略してしまう表現形式をとり、話し手が相手の期待にそえず申し訳ないという意味を創り出す。同時に言いにくい述部を聞き手に察してもらう方法をとることで、話し手の意思決定に聞き手に参加させ、共同作業の会話に引き込みながら断りの了解を得ることができるのである。」

④呼びかけ：「（前略）「ちょっと」自体に感動詞として、注意を喚起する働きがあると見るべきであろう。ただし、（中略）、相手が目の前にいる場合は抗議など感情を示す目的の含まれるであろう」

⑤とがめ：「「ちょっと」にプロミネンスを置くことにより話し手の不満や怒り、威嚇、詰問、抗議などの感情を強めることができる。」

⑥間つなぎ：「（前略）言いよどみを埋める間投詞の働きがあり、沈黙を回避しようとしているのであり、「ちょっと」自体に意味はない。」

使用データベース

国立国語研究所（2001）『日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース ver.2.』

参考文献

市川　孝（1976）「副用語」『岩波講座日本語 6 文法 1』岩波書店　pp.219-89

岡本佐智子・斎藤シゲミ（2004）「日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能」『北海道文教大学論集』5　pp.65-75

川口　良・佐々木泰子（1996）「日本人と日本語学習者の作文における副詞の発達過程に関する研究」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第 49 号　pp.219-238

工藤浩(1983)「程度副詞をめぐって」渡辺実編『副用語の研究』明治書院. 176-198

小寺里香（2001）「初級～中級学習者の発話にみられる副詞の使用について」『岐阜大学留学生センター紀要』2000　pp.76-89

丁　充英（2005）「文末に否定表現を伴う副詞について」『早稲田日本語研究』13　早稲田大学日本語学会　pp.37-48

日本語教育学会（1976）『日本語教育辞典』大修館書店

村木新次郎（1993）「第 3 章　副詞と文の陳述的なタイプ」『言語学テキスト叢書 1 日本語要説』ひつじ書房　pp.162-243

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店